

<p>〔開会の宣告〕 遠藤教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤教育長</p> <p>〔公開の審議〕 遠藤教育長</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>令和元年7月定例教育委員会会議を開会します。</p> <p>本日は、私のほか5人の委員が出席しているので、この会議は成立しています。 会議録署名人は、泉委員と出川委員とします。</p> <p>本日の会議日程について、議第21号、議第22号、議第23号及び議第25号については、「議会の議決を経るべき議案の原案の決定に関する事」に該当することから、教育委員会会議規則第13条に基づき非公開の審議が適当と考えますが、議第21号、議第22号、議第23号及び議第25号について、非公開に賛成の委員は、挙手をお願いします。</p> <p style="text-align: center;">（全員挙手）</p> <p>全員賛成により、議第21号、議第22号、議第23号及び議第25号については、非公開とします。</p>								
<p>日程第1 前回会議録承認</p> <p>遠藤教育長</p>	<p>6月27日開催の令和元年6月定例教育委員会会議録及び7月11日開催の第4回臨時教育委員会会議録を承認することにご異議はありませんか。</p> <p style="text-align: center;">（異議なしの声）</p> <p>異議なしと認め、前2回の会議録を承認することに決定します。</p>								
<p>日程第2 事務局報告</p> <p>（1）事業・行事等報告について</p> <p>○ 前回会議（R1.6.27）以降の事業・行事報告（主なもの）</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">7月 5日（金）</td> <td>教師塾「きらり」開講式</td> </tr> <tr> <td>9日（火）</td> <td>第2回校長・園長会</td> </tr> <tr> <td>11日（木）</td> <td>熊大教育学部との連携協力会議</td> </tr> <tr> <td>12日（金）</td> <td>令和元年度熊本市地区学校等警察連絡協議会全体会</td> </tr> </table>	7月 5日（金）	教師塾「きらり」開講式	9日（火）	第2回校長・園長会	11日（木）	熊大教育学部との連携協力会議	12日（金）	令和元年度熊本市地区学校等警察連絡協議会全体会	
7月 5日（金）	教師塾「きらり」開講式								
9日（火）	第2回校長・園長会								
11日（木）	熊大教育学部との連携協力会議								
12日（金）	令和元年度熊本市地区学校等警察連絡協議会全体会								

14日（日）	令和元年度熊本市立学校教員採用選考試験
○ 今後の予定（主なもの）	
7月31日（水）	第1回市立高等学校等改革検討委員会
8月 1日（木）	全国特別支援学級設置学校長協会第56回全国研究協議会
7日（水）	第59回九州地区公立学校教頭会研究大会熊本大会
8日（木）	九州中学校特別活動研究大会熊本大会
西山委員	熊大教育学部との連携協力会議で何か決まったことがあれば教えてください。
橋爪教育次長	事務部会の方で事前に案を練っておりましたので、特に新しくこれを決めましたということはありません。
遠藤教育長	これまで行ってる連携事業の進捗状況の確認がメインです。
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">日程第3 議事</div>	
<p>・議第20号 令和元年度（2019年度）熊本市教育委員会事務事業点検評価報告書《平成30年度（2018年度）事業分》について</p> <p style="text-align: center;">《福島 教育政策課長 提出理由説明》</p>	
遠藤教育長	<p>いくつか委員の皆さんの意見を聞きたいようなご意見があったように思います。</p> <p>例えば、一つは学校の役割について、これは本当に学校の役割なのかどうかフィルターをかけるような組織をつくってはどうかという意見がありましたけれど、どこかの課の中に学校の役割判定委員会みたいなものをつくるということですかね。</p> <p>文科省には、初等中等教育局の中に、例えば地方に通知を出すときに、これが本当に必要なのかどうかを査定するような担当をつくっているみたいで、働き方改革ですよね。何でもかんでも文科省から、教育委員会に投げるんじゃなくて、果たしてこの通知は必要なのか、この調査は必要なのかと、一回そこを通してからじゃないと外に出さないという仕組みにしたというふうに聞いています。ただ、正直それほどの効果を感じませんので、やっているんだろうとは思いますが、どこまで実効性があるのかということになるかもしれません。</p>

泉委員	<p>どこまでが範囲かという問題をフィルターにかける場合に、新しく入ってきた問題を、それが教育委員会の問題かどうかというのを考えるというのと、今やっていることをもう一回見直すという二つの面があると思うんですけど、今考えるべきはどちらですか。どちらから優先したほうがいいのかとか、そういった今やっていることで一回見直したほうがいいのかという事案があるかどうか。</p>
遠藤教育長	<p>今やっていることとということでしょうね。新しく出てくるものというのももちろんありますけど、これまでやっていることです。</p>
泉委員	<p>今現在やっていることとということですね。</p>
西山委員	<p>今のお話は、結局、今、保護者からの要望とかクレームに対して、学校が対応している事項の中に、それは学校の責任ではないというような事項が含まれているということなんですか。</p>
遠藤教育長	<p>まあそういうことですね。</p>
西山委員	<p>含まれているけれども、それを学校側が断れない状況があるということですか。</p>
遠藤教育長	<p>学校とか個々の先生方は断りにくいから、教育委員会がこれは学校の役割じゃありませんよ、と明言してくれるとやりやすいということじゃないかなと思います。</p>
西山委員	<p>学校から個別に教育委員会に相談してもらえば済む話じゃないんですか。</p>
遠藤教育長	<p>個別に相談してもらって、それを一元的にどこかで決めて、その学校だけじゃなく、ほかの学校も同じようにするということです。</p>
泉委員	<p>実際、枠がまだあまりはっきりしていないのではないかと、いうところが問題かなと。</p>

遠藤教育長	<p>何が学校の役割かというところを明確に見るほどのかつちりした基準はない。今までやっていたことでも、例えば真夜中に保護者の相談の電話を受けるとか、そういうことはしなくていいということで留守電にしたり、やってきてはいるわけです。閉庁日も新設していますし。</p> <p>ただ、時間的に区切ってはいますけど、内容的に、例えば夜中に子どもがいなくなった場合の対応は、警察に言ってもらいたいということ、これまでも言ってきています。学校が日常やっていることでも、そこまで学校はしなくていいというのを改めて見直すというのはあってもいいのかもしれないですね。そのために、もちろん働き方改革をやっているわけですけど、今の話は、その専属で担当する組織をつくったらどうかという話ですかね。今は教育政策課がやっているわけですね。</p>
福島教育政策課長	<p>今、教育委員会内で教員の学校改革プログラムをやっていますので、少し議題として取り上げて検討してもいいかなと今思っているところです。</p>
遠藤教育長	<p>そういう組織をつくるということ自体も、働き方改革の中で一つの検討課題ということですね。</p>
西山委員	<p>まだよくわかりませんが、具体的に断れないで困っている事例があるんですかね。だから、そういう事例を学校の責任じゃないですよということで、教員の負担が大幅に軽減されるというようなことが予想されるのでしょうか。</p>
遠藤教育長	<p>一つは、給食費の徴収は学校の責任じゃなくて市の責任ということにしましたよね。ですから、今度、市で徴収することになり、その点、学校に責任はない。</p> <p>例えば、子どもが万引きして補導されたという連絡が学校に来たら先生が迎えに行くかもしれないけれど、やはりそれは学校の責任ではなく、親に言うべき話じゃないかということはあるかもしれません。今、親からとか警察からとか、どこから連絡が来たら、学校が基本的に全部対応しているわけですけど、それは学校が対応すべきことかということはあるんじゃないでしょうか。</p>
出川委員	<p>問題が上がってくるということは、子どもの様子が見えると</p>

	<p>ということなので、どこかへつなぐという仕組みをつくるといいんじゃないかと思います。今出てきている問題も見えなくなってしまうたら、当の子どもが困ったり保護者が困ったりするので。</p>
遠藤教育長	<p>学校は知りませんということにすることでなく、学校はかかわりませんというものもあると思います。さっきの給食費の徴収とか、かかわらなくてもいい。ただ、学校も関係はするけれど、主に責任を担うのは学校じゃないということを使うということはあってもいいんじゃないでしょうか。</p> <p>もちろん、学校も情報提供はしてほしいというところはあるかもしれませんが、それは程度の問題です。学校の関与が零と百との二択ではないとは思いますが。</p>
出川委員	<p>教育と福祉の連携の推進とありますので、例えば子どもの問題だったら、やはり学校に期待されていることもあるので、そういう視点も必要かと思います。</p>
遠藤教育長	<p>確かにそうですね。白黒で分けるという話ではないとは思いますが。</p>
西山委員	<p>私も同じ感想で、かなりグレーだと思うんですね。切り分けが難しい問題が多いんじゃないかと。先ほど言われた万引きなんかも、生徒指導という立場では、やはり学校も責任あるわけですから、なかなかこれは関係ないですよと言にくい問題が多いんじゃないでしょうか。</p>
遠藤教育長	<p>今までは、生徒指導ということで学校が主にかかわってきました。例えば、子どもが畑のビニールハウスを壊したという話も学校に来る、そうしたら学校が指導すると、それは本当に学校の仕事なんですか、そういう話は個々にはあるわけです。学校も関係あるかもしれないけど、別に制服を着てるからって全部学校の責任じゃないわけです。本来、親の責任かもしれないし、その本人の責任かもしれない、そういうところをもう一遍見直す必要があるんじゃないのかなということだと思います。</p>
西山委員	<p>難しい問題ですね。</p>

遠藤教育長

難しいです。

小屋松委員

今、何でもかんでも学校にと言っているのを今後どこまで区分けできるかという問題でしょう。

学校が一番困っているのは、やはり保護者からのいわゆるクレームですよね。何でそんなことみたいな、一言で言えば非常識なクレームが結構多いんじゃないですか。それに対しての対応というのが非常に困るだろうなと思います。

遠藤教育長

例えば、保護者の自分の悩みを延々、先生に1時間も2時間も3時間も言われるようなことがあると聞きます。もちろん、それは、知りませんと切るのか、その対応の仕方というか程度の問題はあると思いますが、基本的にはそれは学校の扱いじゃないのではないかなというようなことはあるでしょうね。

いずれにせよ、今、ちょうど働き方改革の検討をしていますので、その中で考えますか。

あとは、不登校の別室の活用も公然化したら学校に来やすくなるんじゃないか、これも確かに一つの方法かなという気はしましたね。これも検討していきたいと思います。

〔採決〕 【原案どおり承認された】

・議第24号 熊本市立高等学校学則の一部改正について

《古家 学務課長 提出理由説明》

西山委員

それは結構ですけど、入学後のクラス編制等で具体的に困るようなことはないんでしょうか。例えば、体育の授業とか、男女別にやりますよね。

遠藤教育長

性別がわからないとということですね。

松島指導課長

これは本人が記入する部分でございまして、本人の記入部分に関しては性別は不要ということで、調査書等にはきちんと男女の欄がございしますので、そこは大丈夫でございまして。

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第26号 熊本市学校給食調理等業務委託評価委員会の委員の委嘱について

《中村 健康教育課長 提出理由説明》

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第27号 熊本市教育の情報化検討委員会の委員の委嘱について

《本田 教育情報室長 提出理由説明》

遠藤教育長

この委員会は、具体的には何をやるというか、評価の報告書か何かをつくるんですか、それとも意見表明か何かをするんですか。

本田教育情報室長

今のところは、まずいろんな学校からの実態、ご意見をお伺いし、それに基づきまして学識経験者の皆様からご意見をお伺いする中で、活用の方法、それからエビデンスをまだ現在のところは出していくことができていませんので、どういう形で活用の成果を出していけるか、これからの情報化推進に生かしていくということで考えているところでございます。

遠藤教育長

委員会の成果物としては意見をもらうということですね。何かを決めたり報告書をつくったりということはない、アドバイスをもらうということによろしいですか。

本田教育情報室長

今のところは、そのような形で考えているところでございます。

〔採決〕 【原案どおり承認された】

- ・議第28号 熊本博物館協議会の委員の委嘱について

《植木 博物館長 提出理由説明》

西山委員

反対するものではありませんが、全体的な印象として、ちょっと理科の専門家が少ないですね。歴史、社会が多くて、将来的には少し理科の人も増やすようにしていただきたいなと思います。

植木博物館長

わかりました。今回、再任が多いということもございます関係で、理科については、南阿蘇ルナ天文台の台長にお入りいただいているという形にはなろうかと思えますけれど、今回は、特にリニューアルの経緯も踏まえまして、そういう事情を熟知していただいている委員の皆様方にリニューアル後の運営についても、しばらくの間ご意見をいただきたいと思い、再任をお願いしたところでございます。

今後は、理科関係の委員につきましても検討させていただきたいと思います。

遠藤教育長

今回は、リニューアルしたところなので、これまでの経緯も踏まえた方に引き続き再任ということですね。

理科というと、例えばどういう分野ということになるんですかね。

西山委員

生物と地学ですね。

遠藤教育長

生物と地学。そういう分野について、今後また考えてください。

植木博物館長

理科につきましては、ルナ天文台の台長だけご紹介いたしましたけれども、第1番目の東海大学の観光ビジネス学科の阿部先生につきましては、博物館学並びに生物関係もご専門でいらっしゃいますので、お2人いらっしゃるという状況ではございます。

先ほど申しましたように、リニューアルを踏まえて、しばらくは運営を見ていただきたいという思いもございましたので、再任をお願いしましたが、ご指摘について、今後は検討していきたいと思います。

[採決]

【原案どおり承認された】

日程第4 報告

- ・報告（1）学校指定物品に関する指針の見直しについて

《福島 教育政策課長 報告》

西山委員

靴下まで指定しないといけないんでしょうか。ちょっと疑問に思ったんですけど。

福島教育政策課長

基本的には、学校の靴下については、もう指定はしていただきたくないというのが本音でございます。ただ、今、特に中学校において、数校、イニシャルとかが入っている靴下を使用されておりますので、その靴下については指定物品と指定して、複数の業者が取り扱えるようにという意味でございます。

遠藤教育長

ここに載っているものを指定するという意味ではなくて、指定する場合は、このルールをちゃんと守ってくださいということです。

西山委員

そういう意味ですね。わかりました。

遠藤教育長

靴下は、ここに載ってないので、今はルールなく指定されている現状があるということです。

- ・報告（2）令和元年第2回定例市議会報告について

西山委員

一番最初の子どもの安全対策の話ですけど、以前、ここでもちょっと議論しましたが、「こどもひなんの家」というのを一時期指定して、随分看板もかかってたんですけど、最近少し廃れたんじゃないかという話をしましたよね。その後、どうなったんでしょうか。ステッカーも、貼ってあるところもあるけど、随分古びてきちゃって、もう一遍やり直したほうがいいんじゃないかなという気もするんですけども、現状はどうなってますでしょうか。

中村健康教育課長	<p>こどもひなんの家ですけれども、30年度において、約9,400件登録されています。</p> <p>委員がおっしゃったとおり、以前はステッカーが貼ってあったんですが、今は、プラスチックでできた看板になります。大体その年に新たに登録されたところに看板を設置し、ステッカーが古いところについては、切り替えていっているような状況です。</p>
遠藤教育長	<p>昔からやっているところのステッカーがだんだん古くなって、廃れているように見えるんでしょうかね。昔から熱心にやっているところほど、そう見えるのかもしれないですね。</p> <p>あまりにも古くなったものについては、切り替えているということですね。</p> <p>それは、切りかえてくれという要望があったら対応するという話でしょうか。</p>
中村健康教育課長	<p>こどもひなんの家については、学校を通していろいろなことを行っており、件数あたりも学校を通して出していただいております。新たな登録箇所とかも学校を通して出していただいておりますので、そういった要望があったときには、学校を通してひなんの家に提供していただいているという状況です。</p>
遠藤教育長	<p>普通、こっちから言わないとなかなか、ステッカーが古くなったから替えてくれとは自分からは言わないような気もするんですけど、例えばそういうことがあれば言ってくださいというような呼びかけはしているんですか。</p>
中村健康教育課長	<p>毎年、ひなんの家については、各学校から地域の例えば企業だとか、コンビニだとか、あとはもちろん一般のご家庭もですけども、そういったところに呼びかけて登録していただくという形をとっているんですが、そういう中で、継続して登録していただいているところについても、声をかけたりだとかされていますので、そういうご意見があったときには、対応をさせていただいている状況でございます。</p>
西山委員	<p>カリタス小学校の通学バスを待つ列が襲われて、保護者1人と生徒1人が亡くなるというどうしようもない、防ぎようのない事件が起こって、我々も無力感にさいなまれるところがある</p>

中村健康教育課長

んですけれども、こどもひなんの家に頼むときも、もう一步踏み込んだ頼み方ができないか、子どもの見守りもできる範囲でお願いしますみたいな頼み方ができないかなと思います。

こどもひなんの家って掛かっているところは、商店とか理髪店とか、そういうところが結構多いですね。だから、通学時間帯にはそれとなく見守ってくださいとか、声かけしてくださいとか、そういう頼み方もあっていいんじゃないかなという気がしますが、いかがでしょうか。

こどもひなんの家に限らず、地域の方々には日ごろから防犯協会とかいろいろなところで、学校を通してなんですけれども、地域の見守りの強化というところをお願いしているところがございます。

今、委員からご紹介がありましたように、ひなんの家にも、見守り強化とかについても、機会を持って話をできればというふうに思います。

森委員

ひなんの家じゃないんですけれど、今、西山委員が触れられたのでお話しすると、登下校の安全という意味で、元々の話というのは、新潟で女の子が下校中、不審者に襲われて命を落としたということがあって、そのとき想定されていたのが、そういう人気のないところで子どもが一人になったときに狙うという、今までも一番問題になったケースだったので、今言った見守りの強化であったり、スクールバスでまとめて一緒に通いましょうみたいな話が出たんですね。

この前、起こった川崎の事件というのは、むしろ逃げることとかそういうのを想定してないというか、自分もその場で子どもを襲って死のうみみたいな感覚の、例えが適切かどうかわからないですけど、テロみみたいな、そういう犯罪なので、そういう場所というのは、逆に子どもがいっぱいいるところで、それがたまたまスクールバスだったんですね。

通常の本県で考えると、学校の校門の近くで子どもがいっぱい集まってくるところを襲うとか、同じ発想だったら逆にそういう襲い方になってくると思うんですね。そうすると、今までのように人気のないというか目の届かないところを見てくださいということよりも、子どもがいっぱい集まる、特に朝の登校時間というのは、非常に短い、限られた時間に同じ通学路をたくさん子どもが来るので、そこを狙われちゃうと本当に守りよ

	<p>うがないというか、例えば1人、2人校門に立っていても防ぎようがない事故になってしまうので、従来の安全対策、地域がくまなく見ていくというのとはちょっと発想を変えて子どもを守っていかなくちゃいけないんじゃないかなという気はしています。</p>
中村健康教育課長	<p>確かに、予想もしないような事件と申しますか、そういったものが起きているというところで、今後は、やはり今おっしゃったように、いろいろな危機管理のあり方については、今までとは違ったところでいろいろなことを調査研究をしていくことも必要だというふうには考えています。</p>
遠藤教育長	<p>ちょうど昨日、熊本市と県警との協議会というのがあって、その中で私も発言して、西山委員、森委員がおっしゃったようなことですけど、これまでの地域と保護者、教員の見守りということでは防げない、明確に子どもを殺そうという、あるいは危害を加えようという意思を持って襲ってくる人に対しては、ボランティアとか見守りでは防げないという状況があるので、そういった子どもたちの安全をどう守るかというのは警察の知恵を借りたい、私たちが一生懸命考えてもわからない部分があるので、技術的な面も含めて警察の協力も得て対策を考えたいので、よろしくお願ひしたいということは県警には要望しました。</p> <p>警察も、もちろん万能ではないですけど、プロですから、その方々の知見も借りながら対策を考えていきたいと思っていますところですよ。</p>
森委員	<p>子どもではないですけど、京都の放火というのも一緒なんです。さっき、テロと話しましたが、大量殺人を最初から意図していて、まさに無差別的に襲ってくるので、ああいうタイプの犯罪というか事件をどうするかというのがやっぱり今後問題になるとは思うんですね。特に、一回事件が起こると犠牲者が多いですよ。</p>
遠藤教育長	<p>本当は事前に防げれば一番良いですけど、なかなかそうはいかないのが難しいですね。</p>
小屋松委員	<p>小学校の部活動が社会体育化して、学校の授業が終わりまし</p>

	<p>た、それから社会体育の部活に入る、この間の時間というのが多分あると思うんですね。授業の終わりとは部活動の開始時間というのは、多分1時間ぐらい差があるんじゃないかと思うんですけど、どうなんですかね。</p> <p>私が言いたいのは、ある学校で、授業が終わりました、部活動までの時間は一遍家に帰りなさいと、それからもう一回登校して部活動に入りなさいと、そういうことをやってる学校と、そうじゃなくて、それは子どもの安全考えれば、学校にいて、それから部活動に移行していいという、2通りのやり方がどうもあるみたいで、今の登下校の安全から考えると、一遍帰ってからもう一回出て来いというのは、登下校の機会が1回増えるわけですね。それでいいのかなというのが疑問としてあるんですよ。</p> <p>そこら辺の対応というのは、教育委員会としてあるのかどうか。いかがですか。多分、学校とすれば、それから以降の社会体育の方は学校の責任ではないよということを明確に分けるためにそういうふうの下校させているんじゃないかなという気がしたものですから、それでいいのかなというのがありまして。まだ、そういった情報はないんですかね。</p> <p>今、ご意見いただきましたけれども、その状況というのが私どものほうでも把握ができてないところです。</p> <p>学校が終わって、そのまま部活に流れていくというのが通常だと思うんです。その間に、時間があるときに一度帰ってとか、その辺の状況というのが把握できてないところがございます。</p>
<p>中村健康教育課長</p>	<p>今、ご意見いただきましたけれども、その状況というのが私どものほうでも把握ができてないところです。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>学校の方針として、一遍帰りなさいということをやっているとところがあるということなので、そういった学校の方針でいいのかなというのは、気にかかる場所だったんです。</p>
<p>中村健康教育課長</p>	<p>おっしゃるとおり、登下校というのがそこに発生するわけですから、その分、そこにリスクは発生するということになりますので、そのあたりについて、状況を把握させていただきたいと思っております。</p>
<p>森委員</p>	<p>確認ですけど、例えば体育館でも運動場でも、学校教育の場合は校長が管理していますよね。夜間開放で運動場であったり体育館を地域の人が子どもを集めて、部活の受け皿としてやっ</p>

	<p>ている社会体育に貸し出す場合の貸し出し時間ってありますよね。それは、今、ちゃんと何時からというのがあるじゃないですか。だから、そのギャップの話じゃないかなと思うんですけど、その時間は何時からですか。</p>
福島教育政策課長	学校施設条例と施行規則があって、7時半からです。
森委員	そうすると多分、今、小屋松委員が言われたのは、社会体育で使える時間が7時半からということになると、一旦そこが1時間どころか何時間かあきますよね。だから、帰りなさいという話になってくるんじゃないかと思って、ちょっと聞いたんですけど。
小屋松委員	夜間開放は19時半からですよね。そうじゃなくて、社会体育に移行した子どもたちがやるいわゆる部活というか子どもたちの活動時間というのは、多分5時半から7時ぐらいじゃないかな。だから、多分授業が終わって、その活動ができるまでしばらく間があるんじゃないかと思うんですよ。ここをどうするかという話。そこを、一遍帰りなさいというふうに言ってしまうと、どうかなというのがありまして。
遠藤教育長	<p>小学校の部活動を存続するか、社会体育に移行するか、廃止するかという、今、3つの方針に分けていますよね。社会体育に移行したところの練習時間までの間が一回帰れというふうになっている、そういう話ですか。</p> <p>社会体育に移行したところの活動時間も7時半からなんですか。そうではないですよね。</p> <p>下校と夜間開放の間の時間を使ってやっているということで、5時から7時とか、大体そのぐらいということですよ。</p> <p>そこを、学校の責任ではないということを明確にするために、一旦家に帰らせるという学校があるんじゃないかと、あるならいかなものかということですね。</p> <p>そこに対しての考え方はどうなのでしょう。もちろん、部活動のときはずっと学校にいたわけだから、社会体育になったからといって、一回家に帰る必要はないようには思いますけど。一旦家に帰れとは言っていないですよ、教育委員会としては。</p>
松島指導課長	私も学校の経験から、よほどの事情がない限り、一旦家に帰

	<p>ってから部活をしなさいというのはないのではないかと認識をしております。</p> <p>ただ、例えば、学校訪問でお邪魔したりするときには、全先生方がそれぞれ授業についての分科会をするわけです。そうしますと、子どもたちはそこには関係ないわけですから、一旦放課になって、そこに1時間半ぐらいの時間が空いたりする場合には、ずっと学校で待たせておくということではなく、一旦下校して、4時半以降ぐらいに、部活動の時間になったら、また登校して部活動しましょうというような指導をされる場合はございます。</p>
遠藤教育長	<p>今の問題は、多分部活動じゃなくて、部活動じゃなくなった社会体育の扱いなんじゃないですか。</p>
松島指導課長	<p>社会体育の場合でも、基本的にはそのまま活動されていると認識しております。</p>
森委員	<p>そもそも、例えば7時半以降の学校の開放じゃない、7時半より前の4時半から7時半の前というのは、社会体育に貸せるんですか。</p>
福島教育政策課長	<p>校長の専決事項で入っておりますので貸すことはできます。</p>
森委員	<p>校長がオーケーと言えば、貸せるんですね。</p>
遠藤教育長	<p>もし、何か学校が勘違いして、社会体育だから一回家に帰れという指導をしているものがあるならば、その必要はないよということを教育委員会で言ってあげるということですね。</p>
小屋松委員	<p>まだ情報が上がってこないんでしょう。集計ももちろんされてないでしょうし。</p>
遠藤教育長	<p>空く時間にもよりますけどね。3時間、学校で待ってろというのは、さすがにどうかと思いますけど。</p>
小屋松委員	<p>多分通常の、今までの部活動の感じだと思うんですよ。それでも、学校じゃないから、一遍帰ってから出直しなさいみたいな、そういう指導がおかしいなという感じがします。</p>

遠藤教育長	<p>それは、別に一旦帰ったから学校の責任じゃなくなるとか、帰らなかったから学校の責任だとか、そういう話じゃないでしょうから、もし学校がそう思っているなら、誤解を解くようにしたいと思います。</p>
西山委員	<p>ちょっと、大事な話なのでお伺いしたいんですけど、池田小学校事件のように、学校そのものが襲われる可能性がありますよね。それに対する対応というのは、どうなっているんですか。要するに、不審者侵入に対する防御といいますか、あるいは不審者の検知といいますか、それはどういうふうに、対応しているんでしょうか。</p>
中村健康教育課長	<p>各学校には、まずは危機管理マニュアルというものがございまして、そういった不審者に対しての対応を、学校内の全職員がそのマニュアルをもとに役割を持って確認しているということです。また、毎年度、そういった不審者対応の研修を開催したりというところで意識を高めていただいているというところでございます。</p>
西山委員	<p>さすまたとか、常備してあるんですか。</p>
中村健康教育課長	<p>各学校には、さすまたはございます。</p>
遠藤教育長	<p>今までの対策で十分かどうかという見直しは必要ではあると思います。さすまた1本あっても意味がないので。みんなでやらないといけないでしょうし。</p>
西山委員	<p>京都アニメーションの事件でも、狙われたのがちょうど業者が入り出す時間帯で、誰でも出入りできる状況でしたよね。だから、侵入しても不審に思われなくて、作業員が入ってきたぐらいにしか思われなかった。ちゃんと管理していたら、あなたはどなたですかというチェックが入っていたら、事情はまた変わったかもしれないと思うんですよね。</p> <p>学校の場合、非常に難しいと思うんですけど、やっぱり狙われる可能性があるということは常に意識しておかないと、いつ何が起こるかわからないと思いますね。</p>

遠藤教育長	<p>本当は、校門にちゃんと警備員が常駐して、誰ですかというのをチェックしてから入れるということなんでしょうけど、警官が拳銃を奪われて学校の警備員が撃たれたというようなこともありますが、そこまで考えると一体何が安全なのかというのが難しい。警察の助言も受けながら考えていきたいと思います。</p>
出川委員	<p>13-4に、「子どもの権利を理解する必要性について」ということで、子どもに対して、子どもが権利を理解するためのことが書いてあるんですが、次のページに、「保護者に対する子どもの権利を理解してもらおう取組みについて」というところでも、「熊本市子どもフォーラム」に参加していただくということが書かれていますが、それ以外に何かなさっていらっしゃいますか。</p>
平生人権教育指導室長	<p>保護者に対する子どもの権利を理解してもらおうような周知の方法としましては、学校だよりとか、そういうもので子どもの権利条約について知らせるとか、そしてやはり一番大きいのは、保護者会とかの機会に校長の講話とかで知らせるというほかに、この子どもフォーラムというのを各学校で開催して周知してもらおうということを考えております。</p>
出川委員	<p>この文章は、保護者への呼びかけというのと別に、熊本市子どもフォーラムに参加していただいているということなんでしょうか。2通りのことが書かれているということなんでしょうか。</p>
平生人権教育指導室長	<p>ここに書いてあるのは、保護者、地域の方に呼びかけて、子どもフォーラムに参加するようにはしていただいているところですということを書いております。まず、保護者に参加していただくことで、子どもの権利条約について知っていただくというのが一つです。</p> <p>子どもフォーラムが、保護者が参加しやすいような状況になっていないのではないかとということで、校長・園長会の方に呼びかけて、子どもフォーラムを保護者が参加しやすい、地域の方も参加しやすいような機会、場に設定していただくようお願いしているという意味です。</p>
出川委員	<p>熊本市子どもフォーラムに呼びかけて参加していただくこと</p>

	<p>も大事なことだと思いますけれども、学校の中のお便りや校長先生のお話の中で、周知していくことが大事なのかなと思いますので、そういうことをされているんだったら、ここに書かれたほうがいいのではないかと思います。</p>
遠藤教育長	<p>子どもを通じて保護者にもという意味ですか。</p>
出川委員	<p>いえ、親御さんに直接子どもの権利を伝えるような機会を。</p>
遠藤教育長	<p>フォーラムとは別に、学校で、校長なり教員が保護者に話をする機会に、直接話をしたらどうかということですね。 それは、おっしゃるとおりだと思います。</p>
平生人権教育指導室長	<p>ここには書いておりませんが、実際にはそうしていただいているところです。</p>
遠藤教育長	<p>事業名として出しているのはフォーラムだけれども、それ以外の場でも、当然各学校では校長なり各担任なりが知らせているということですね。</p>
<p>・報告（3）子どもたちの心のケアについて</p>	
<p>《川上 総合支援課長 報告》</p>	
泉委員	<p>これは総数ですけれども、小学校から中学3年生までの中で、どの学年が多いとか、何かそういった統計的な変化はありますか。</p>
川上総合支援課長	<p>学年別にいきますと、小学1年生が113名で、新規が102名になっております。一番多いのが小学5年生で133人です。新規が一番多いのが小学1年生です。 中学生に関しましては、必要数はほぼ46から49であまり変わりませんが、新規からいきますと、中学1年生が27名ということで一番多いという結果になっております。</p>
泉委員	<p>地震関連と関係づけますと、何歳で地震を体験したかという</p>

川上総合支援課長	<p>ことと関係が出てくるのかなと思うんですけども。例えば学年によって、年々、分布が違ってくるというような、そういった変化はないんでしょうか。</p> <p>今の小学1、2年生が保育園、幼稚園の年長、年中ということで、だんだん感受性が育ってきた年代で地震を受けているということもあると思います。</p> <p>5年生が一番多いですけども、小学校低学年ごろということで、もうしばらくこの傾向は見ていかないと、東日本大震災も5年後にいろんな影響が出てきたということですので、調査のやり方については検討・協議しながら、もう少し地震に特化したような調査ができないかは検討していきたいと思っておりますけれども、調査自体は継続して見ながら、変化が出てくる場合には、それなりの対応をとっていかないといけないかなというふうに思っております。</p>
小屋松委員	<p>シートのことではちょっとお伺いしますが、この頻度の「1・2日ある」とか「3-5日ある」、「ほぼ毎日ある」、これは週単位ということですかね、基準は。1週間のうちに1、2回あるということなんですか。</p>
川上総合支援課長	<p>大体1週間ということです。</p>
小屋松委員	<p>それと、項目の中に、「ちょっとしたきっかけで、思いだしたくないのに、思いだしてしまう」というのは、これは多分想定は地震なのかなと思いますけど、先ほどのご説明だと、別に地震に限ってないというふうにおっしゃいましたけど、この辺ちょっと難しいなと思ひましてね、答えが。地震だったら何とかわかりますけどね。</p>
遠藤教育長	<p>地震じゃない場合は、確かに何のことなんだろうというところが。これは、各学校、地震だという認識でいいんですか。</p>
川上総合支援課長	<p>学校に幾つか聞き取りをしておりますが、例えば家にいたという状況で、親がちょっと出かけてひとりになると不安になるとか、それから暗いところに行ったりとかトイレにひとりで入ったときにちょっと不安感が増す、それから大きな物音がする、ドーンというような音とか、そういったもので不安感が募ると</p>

遠藤教育長	<p>いう、そこら辺が学校からは出ております。</p> <p>地震とは書いていないけど、基本的には地震関係ということですね。</p>
・報告（4） 学校給食費の公会計化について	
《中村 健康教育課長 報告》	
・報告（5） 図書館事業統計（H30実績）について	
《坂本 市立図書館長 報告》	
遠藤教育長	<p>地震で利用が減って、それがまだ十分に回復してないという話がありましたけど、地震の直後に図書館が閉まってる期間はともかくとして、地震の影響で長期的に貸し出しが減るのはどういう理由なんですかね。</p>
坂本市立図書館長	<p>まず、プラザ図書館でございますが、あそこは1階に小売店が入ってございましたが、地震後にそれが閉店いたしております。施設全体として集客能力が落ちたということが大きな要因かと思えます。</p> <p>また、公民館につきましては、もともと低下傾向にあったところで、しばらく休館があったということで、利用者が離れてしまって、それがまだ戻っていないというのが現状かと思えます。</p>
・報告（6） 埋蔵文化財発掘調査中の事故について	
《小関 文化振興課副課長 報告》	
森委員	<p>2点質問ですが、事故に遭われた作業員というのは市の職員ですか、それともどこか委託した外部の職員さんですか、それ</p>

	<p>が一つ。</p> <p>最後に出てきた文化庁と県の手引に従ってということなので、新たにつくる話は別として、文化庁とか県作成の手引に沿った作業はされていたんですか。そもそもそれを守っていたか守っていなかったかという話です。</p>
小関文化振興課副課長	<p>まず、1点目の職員についてですけれども、熊本市で採用をいたしております臨時職員さんですので、熊本市の臨時職員ということで採用させていただいた方でいらっしゃいます。</p> <p>手引についてですけれども、文化庁、熊本県のつくった手引に従って進めさせていただいております、安全管理、安全点検もするようにというところでさせていただいていた部分はございます。ただ、そのとおりにしっかりできていたかという点については、今、警察、労基署の方で確認をされていかれると思いますので、それを含めましてしっかりと検証もしていきたいというふうには考えております。</p>
遠藤教育長	<p>次に、日程にはありませんが、学校改革推進室から報告があります。</p>
<p>・報告（7）市立高等学校等改革検討委員会委員名簿について</p> <p>《濱洲 学校改革推進室長 報告》</p>	
<p>日程第5 自由討議</p>	
<p>・テーマ：プログラミング教育について</p>	
遠藤教育長	<p>今月は「プログラミング教育について」をテーマに討議を行いたいと思います。討議を始めるに当たり、本市の現状等について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>《本田 教育情報室長 説明》</p> <p>西山委員</p> <p>年間2時間から3時間ということで、何かちょっと中途半端な気がするんですけども、効果が上がるのでしょうか。</p>	

遠藤教育長

2時間か3時間で効果が上がるのかということですけど。

本田教育情報室長

今、先生方自体には、もう研修も行って、教科書に例示されているものからというところで2時間から3時間ということでお示ししているところがございますが、目的としてはプログラミング的思考を育成するというふうに、教科の縦割りであれば、正多角形の学習を算数の中で学習するにも、より理解させるという意味でこういったものを取り入れていくということです。一遍に10時間とか、そういったところでしていくと、やはりそこには少し無理があるのかなというふうなこともございまして、まずは各学年、先生方の負担等も考えたこともありますし、より教科の目標を押さえていくというものと、こうしたプログラミング的思考をつけるというのを考えたときに、無理なくまずはやっていきたいという思いもございまして、一応今のところは2、3時間程度のところで、各学年、モデルカリキュラムを作成しているところがございます。

遠藤教育長

どこまでがプログラミング教育なのかというのがわかりにくいというか、例えば18-7、アンプラグドといえは掃除の手順という、これもプログラミング的な思考を学ぶということ。

さっき、ご紹介ありましたけど、料理なんかもプログラミング的思考を学ぶ。音楽なんかも、まさにそうですね。作曲してみましようといったら、もうこういうプログラミングだというふうに解釈すれば、掃除がプログラミング教育なのかという話になると、2時間とかじゃなくて、もっといっぱいやっていますよということも言えるわけですね。必ずしもパソコンやタブレットを使う必要はないし、そのコーディング、要するにコードを書く必要もない。でも、プログラミング的思考を養っていますよという活動というのは学校の中で非常にたくさんあると思いますけどね。

順序と場合分けと繰り返しですよ。イメージでいうと、すごろくとかフローチャートとかそういうものを書くという作業はプログラミングなわけですよ。そうすると、いっぱいやりますよというふうにも言えちゃうわけですから、別にこれ使わなくても、今までと同じことをやっているだけで、プログラミング教育を10時間も20時間も30時間もやっていますよという言い方もできなくはないですよ。

本田教育情報室長

それに加えて何をやるかということなんですが、あえてそこまで、十分プログラミング的思考を養う教育をやってるんだから、タブレットで何か追加的にやらなくてもいいんじゃないという考えもあるような気がするんですが、そこはどうですか。どう考えているんでしょうかね。

先ほどちょっと説明が不足しておりました。2時間から3時間と言いましたのは、今、教育長が言われましたタブレットを实际使って、先ほどスクラッチの説明もいたしましたけど、あいつたものとか、低学年であれば図工の中で、魚を動かしてみるとか、絵を動かしてみるとか、こういったものに特化したような授業を2、3時間ということ考えているというところでございます。

そのほかにも、もちろん調理の中でも並行調理といいまして、調理を同時に、みそ汁と御飯を同時につくっていくということで、片づけも含めてそういった手順を考えていたりすることもやっていきますし、そういった意味では、いろんな場面でプログラミング的思考というのは身につけていくべきものというふうに捉えているところでございます。

遠藤教育長

いろんな場面で身につけているんだけど、あえてそれに特化したものを少しやってみようというのが今回の趣旨ということですね。

今回、タブレットとかICTを導入しますよね。私は、このタブレットとかは、別にプログラミング教育のために導入しているわけじゃなくて、各教科の学力向上のために導入しているんだというふうに最初から言っているつもりなんですけど、やっぱりプログラミング教育をやるんですよねという誤解というか、ICT＝プログラミングだみたいな認識も結構あって。それは教育委員会事務局の中にもそういう誤解がまだある人もいて、プログラミング教育をやるためにICTを導入しますみたいな説明をする人もいるので、それはなくしたほうがいいと私は思うんですけどね。

ただ、プログラミングに全く無関心でいいのかといたら、そうでもないでしょう。せつかく使えるから、少しそういうスクラッチなり何なり、そういう機会をつくってみるのもいいんじゃないのかなと、個人的には、その程度と言ったら失礼なんですけど。そういうものなのかなというふうに思っているんで

	<p>すけど、皆さんの中で、もし、いやいや、もっとこれからの時代はプログラミング言語と英語が生きていくために必須だ、熊本市みたいな冷淡なスタンスじゃなくて、もっとがんがん行きましょうみたいな意見があれば、それはそれで伺いたいなと思いますけど。どうなんでしょう、プログラミングって、これから必須なんですかね、仕事していく上で。</p>
西山委員	<p>大学レベルだと、文系の人もプログラミング教育を進めようという動きになってますよね。</p>
遠藤教育長	<p>ある程度の分野では必要だというか、そういう議論にはなってくるんでしょうね、これまでより。</p>
西山委員	<p>ただ、小中学校で必要かと言われると、私はそこまで必要じゃないなとは思ってますけど、だからあくまでもプログラムの思考であって、大学でやっているのはデータサイエンスみたいなやつですよ。だから、もちろんコーディングから始まるわけですけども、そういうのは大学入ってからやればいい。結構時間かかりますし。</p>
遠藤教育長	<p>大学入ってからぐらいでいい。</p>
西山委員	<p>やればいいんじゃないかなと私は思いますけど。</p>
遠藤教育長	<p>そのぐらいからで間に合うものですか。</p>
西山委員	<p>昔はそうだったわけですから。みんな、理系の学生は大学入ってから情報教育を受けて。</p>
遠藤教育長	<p>確かに、今のプログラマーだって、別に小学校、中学校で習ったわけではないですからね。それはそうです。</p>
西山委員	<p>好きな人は、小学校、中学校でも、ゲームのプログラミングまでやる人はやってるわけですからね。</p>
小屋松委員	<p>そこだけじゃないけど、早くからやっぱりそういうことをやらないと、世界から取り残されてるみたいな。 そもそも、何でプログラミング教育なのかということをもう</p>

	<p>ちょっと教えてもらえますか。何で小学校からプログラミング教育をせないかんのかなという、その必要性といいますかね、何かがあってやっぱりこんなん出てきたと思うんですけど、世界見回したときに、日本はこの辺で遅れているとか、そういったものがあつたのかなと思いますけど。</p>
西山委員	<p>それは、政府は非常に危機感を持っているわけですよ。IT人材が決定的に不足していて、特にインドみたいにIT人材、ものすごく優秀な人をたくさん輩出してる国があって、将来、現場でも負けてしまうという危機感があって、そういう教育を広めようとしてるわけですよ。</p>
小屋松委員	<p>インドは、相当昔からプログラミング教育をやってたんでしょうね。</p>
西山委員	<p>やっていたんでしょうね。</p>
遠藤教育長	<p>国全体の人材を見たときには、こういう分野が決定的に足りてない、それは事実なんだと思いますよ。ただ、小学校、中学校で、だから全員にやりましょうというのは、裾野を広げといて、将来の人材、そういう分野に進む人を増やしましょうという趣旨なんだと思いますから、100%みんながこれを大人になったときに必要とするかという、それはまた少し別の問題。</p> <p>ただ、プログラミング的な思考、物事を順序立てて考えたり、一つ一つ段階を踏んで物事をやっていくという考え方は、もちろんさっきの料理なり何なりでも当然必要にはなってくるし、それはこれまでの学校教育でもやってはいたわけですよ。だから、プログラミング的思考の育成ですと本当に言い切っちゃうんだったら、別に新しいことをやる必要は何もないと思うんですよ。</p> <p>ただ、やっぱり、もう少しプログラミングができる人材を日本国全体として必要とするという状況で何ができるかというのを考えたときに、何かこういうのに触れる機会を子どものころからつくりましょうというのは一つの方法なんじゃないかな。</p>
小屋松委員	<p>最終的には、先生たちもそれぞれの教科の中でこのプログラミング的思考を取り入れて授業しましょうみたいな形になっていくんじゃないですか。</p>

遠藤教育長	いろいろ、だから学習指導要領の中でもそういう例示が出てきてますよ。
小屋松委員	そうですね。また現場も混乱するでしょうね。
遠藤教育長	いや、でも逆に、今までやってるものと別のものをやれと言われてるわけではないので。
小屋松委員	別のものじゃないということに気付くことが難しい。
遠藤教育長	共通の部分もあるし、もちろん新しい部分もあるんですね。タブレットを使ってスクラッチでやりましょうと、それは今までやっていませんでしたらから追加でやるんですけど、なかなか私も、正直位置づけがよくわからないというか。
小屋松委員	一昔前にゆとり教育ってありましたよね。あれと関係ないんですかね。あのときに、ゆとり教育は失敗だったという言い方してますけど、ゆとり教育の本当に目指すところというのは、物事をきちんと論理的に考えていくというか、そういう考える力をつけさせるという、何かそういうところに本当の狙いがあったんじゃないかなと思うわけですね。あれと、ちょっと私、今回これ見たときに、そういう意図なのかなと思ったりしたんですけどね、似てるところあるじゃないかと。
遠藤教育長	<p>ゆとり教育からずっとそうですけど、考える力、例えば知識とか技能だけじゃなくて、思考力とか判断力とか表現力とかあるいは学びに向かう力とか人間性とか、そういう部分もやっぱり学校教育では育てていかなきゃいけないという、暗記だけの詰め込みじゃだめですよというのがゆとり教育の基本ですよ。</p> <p>その路線は、今もそんなに変わってはいないわけですよ。その思考力とかをつけるという中の一つの方法として、おっしゃるようにプログラミング教育も入ってきたということなので、ゆとり教育の考え方が完全な失敗で間違いでした、それがまた復活してきましたということではなくて、むしろそのときからの流れの中の一つだという、つながってるものだというふうに理解をしておりますけど。</p>

泉委員

結局、だからゆとり教育というのをやったからといって、思考力がつかなかったんですよ。そこが一番の問題で、目指したものができなかったの、やり方を少しいろいろ工夫しましょうというふうにはなってますけど、目指すもの自体はずっと変わってはないんですよ。

何でしょうね、教育って、目指せば目指すほど、それができなくなるというジレンマみたいな、これからは生きる力ですと言ったら全然生きる力がない、考える力と言ったら考える力がない子どもばかりになったと言われる。文科省が目指すと、その方向と逆に行くという法則があるんですかね。そしたら今度、英語とかプログラミングもますますできないやつばかりになるみたいになってもちょっと困りますよね。

これも、趣旨がうまく伝わらないと、何のためにやってるんですかとなるんですよ。ここですら、そんなに皆さん納得してると思わないし、私自身そんなに、すごく絶対必要かと思ったら、そこまで思っていないし。

論理的な思考をするときに、人の脳って頭の中で勝手にプログラミングしてるんですよ。これじゃないか、あれじゃないかという材料を出して、それを組み立ててつくっていくということを人間の脳はやってるんだと思うんです。それを可視化すると、子どもたちにとってさらにわかりやすい。思考の流れの経路が目に見えてわかって、自分がどういう考えでそういう結論に達したのかというのが可視化できるというところはあると思うんですよ。それで思考力を伸ばせるかということ、しないよりも伸ばせるかもしれないかなとは思いますが。

西山委員

教育者として考えるべきは、プログラミング的思考と非プログラミング的思考、それは何かということを考えるべきだと思うんですよ。

非プログラミング的思考というのは、非論理的、要するに論理的に飛躍のある思考、独創性を生む思考、そういうものであって、プログラミング的思考というのは、決まり決まった手順を上手に速く繰り返してやるという、ある意味、あまり独創性とかが必要ない思考なんですよ。

これ、はっきり切り分けて教育しないと、どっちも大事なんですけど、プログラミング的思考が必要だからといってそっちにばかり走ってしまうと、本当に大事なものが失われてしま

遠藤教育長

う。だから、例えば哲学的思考は非プログラミング的思考ですし、例えばアインシュタインでも、思考実験から始まっているんですね。だから、例えば光の速度で自分が移動したら物事はどう見えるんだとか、そこから始まっているので、決して論理的なステップでたどり着いて独創的な理論をつくっているわけじゃないんです。その大切さを忘れてはいけないと思うんです。

とても重要な指摘で、プログラミング的思考という言葉が出てくると、もちろんそれはやるわけですけど、じゃ、非プログラミング、そうじゃないもの。プログラミングは、基本、誰がやっても、どんどん洗練していけば同じものになっていくというのが一つなんでしょうけど、そうじゃなくて、人によって全然違う結論になる、違う発想になるというものを育てるということもおっしゃるとおり重要。

今まで、どうでしょうね、逆にそれを意識してやってきているのかということも。

泉委員

これで意識できるかもしれないですよ。

遠藤教育長

あえてこれを出すことによって、そうじゃないものを意識できるという効果はあるでしょうけどね。国語とか作文とかですよ、もちろん人によって全然違うわけだけど、そのオリジナルの発想を評価するというのは当然これまでもやられてきているわけですけども、その価値が改めて認識できるということは、もしかしたらあるかもしれませんね。

森委員

今、例えば世の中がどんどん速いスピードで変わっていくから、それに対応できるようなということで一つ言われているのが、例えばビジネスをやっている人の、ビジネスというと、ある面、効率を追求すると言われるんだけど、やっぱり必要なのはアートというか芸術的な発想が要るんですよ。だから、特に先が見えない世の中に、そういうひらめき、さっき、まさに積み重ねていくんじゃないけど、ひらめきじゃないけど、感受性とかひらめきというものがあって初めて新しい発想が出てくる。

今、たまたま教科書をやってるから、それで考えてみると、小学校でいえば図工とか音楽とか、芸術はずっと昔から教科としてあったんですね。それは、ちゃんと目的を達してるかどうかは別として、教科としてはあったと。それに対して、さっき

	<p>泉委員が言われたような、論理的に、芸術的なひらめきの発想の部分と、緻密に積み重ねて、人間の考えを、さっき可視化と言われましたように、まさに分析して見える化するというか、それがプログラミングで、両方を要するに今度取り入れて、両方を意識しながらその人の力をつけていくという、そういうものじゃないかというふうに思ってるんですね。</p> <p>だから、プログラミングが万能でもないし、また全部、岡本太郎じゃないけど、芸術は爆発だみたいな感覚で、全部感覚でやっちゃったらうまくいくかということ、またそうでもないし、そこを、義務教育なので、両方、力を備えてあげるという考え方が要るんじゃないかなというふうに思います。</p>
遠藤教育長	<p>今、あえてこれが出てくるということは、逆に今までは結構感覚に頼ってた部分が多かったということなのかもしれないですけどね。今までこれをやってたけど、あまりその意味とか価値に気づいてなかったというか。</p>
森委員	<p>意識してないというか、算数ともまた違うんですね。プログラミングというのは算数ともまたちょっと違って、だからそれを意識しましょうという問題提起かなというふうには思います。</p>
遠藤教育長	<p>確かに、こう考えるから、これもプログラミング的な思考だね、あれもそうだねというのは、私も確かにそうだなと思いました。今までの学校でやっているものにもこの要素が入っているものがあるんだよというのは、認識する機会にはなりましたね。</p>
出川委員	<p>プログラミングというのがよくわからないので、子どもたちや親御さんとか私も含めて何か不安なのではないかと思います。</p> <p>プログラミング教室に通うとかも聞いたこともあります。なので、学校の中でもプログラミングが何をしているのかその内容を提供していく必要があるのかなというふうに思います。メッセージとして出していただいたら非常にいいかなと感じました。</p>
遠藤教育長	<p>結構、皆さん、不安に思ってますか、やっぱり。</p>

出川委員	学校に入ってくるので、何だろうと思って教室にというのは何人も聞いたことがあります。
遠藤教育長	プログラミングの。
出川委員	はい。プログラミング学習の役に立ちますというのを宣伝文句になっていたりするのも聞くので。
遠藤教育長	それで不安に思われて、何かやらせなきゃとってしまうのであれば、私たちも、そうはならないようにとまでは言わないけども、そうする必要は必ずしもないんですよということは言っていないといけませんよね。まさかここで、今までどおりやってることで、あと、たまにタブレットさわればいいんですよぐらいの話をしているとは思わないですもんね。
出川委員	そうですね。個別に何かそういう学ぶという機会があるというわけじゃなくて、教科の中でこういうことを学んでいくというふうに説明を受けたような気もするんですけど、それだと伝わらないというか、わからないので。
遠藤教育長	学校でそろばんやるからそろばん教室行かなきゃとか、水泳やるから水泳教室行かなきゃとか、音楽やるから音楽教室行かなきゃとか、別に学校でやるからって、全部教室に行く必要はないわけですけどね。それと同じような位置づけではあるんでしょうけどね。
出川委員	日常的に使う言葉ではないので、想像つかないのではないかと。
遠藤教育長	確かにそれは。逆に、これがチャンスだと思ってる業者というか、教室もいっぱいあると思うので、ここぞとばかりに宣伝してることもある。それが不安をあおってるということもあるかもしれません。 どんな言い方をしたらいいですかね、教育委員会とかが、例えば。

出川委員	例えば、授業参観のときに、授業の間の中にそういうのを学んでいるんだというメッセージを流すとか、子どもに伝えるのはもちろんのこと、親が来る機会に。
遠藤教育長	もう既に学校でちゃんとやっていますよと。
出川委員	やっていますよというメッセージを流すと。
遠藤教育長	別に改めて教室に行く必要はありませんよという。もちろん行ってもいいわけですけど、好きな人は。
出川委員	好きな人はですね。
遠藤教育長	好きな人は行ってもいいけど、別にみんな行かなきゃ遅れちゃうとか、そんなことはありませんよということ言う、それはこちらとしても気をつけてやっていく必要はあるかなと思います。
西山委員	国としては、やっぱり将来、IT人材、AI人材を多量に確保したいと思うんですよね。ですから、そういう分野に入っていくやすい素地をつくりたいということなんだろうと思うんですよね。
遠藤教育長	それはそうだと思います。だから、みんなに触れる機会を与えることで、少しでもそれが身近になって、そっちの方面に行く人が増えてくれるという効果を国としては狙ってるわけですよね。 大学レベルではもっと、全員にAI教育でしたっけ、そんな話もありますけど、だからだんだんレベルが上がるに従って人材確保に向けた教育をしていこうという流れはあると思います。これで増えるかどうかというのは、わかりませんが。
小屋松委員	方向性としていくと、IT化が進んでいけば、今の仕事のうちのかなりの部分が消えてしまうと言われてますよね。そのときに、じゃ、何を仕事としていくかという、これをつくり出さなきゃいかんという、やっぱりそういった危機感があるからでしょうね。だから、こういったもので雇用をつくらないと、そこに対応できないというかな、そういうのが国の危機感として

遠藤教育長

あるのかなと思うんですけどね。

最低でもこういうことを理解していないと、新しく生まれてくる仕事に対応するのは難しいんじゃないかという、それは確かにそうなんでしょうね。それが本当なのかどうかというのは、ちょっとわからないですけどね。今ある仕事の半分がなくなったら、じゃ、みんな失業するのかといたら、昔は80%、90%が農業やってたのが、今では1%か2%になっても、みんな失業してないわけだから、別の仕事をちゃんとするんでしょうけどね。そこはわかりませんが、世の中、みんな困らないように動いていくという面はあるんじゃないかと思いますが。

森委員

さっき、出川委員がおっしゃった家庭とか保護者の不安というのは、何かよくわからないという、それだと思うんですけど、それで言われてるのが、家でロボットごっこをするといいよと、そしたらプログラミング的発想、プログラムの思考というのが何かわかる。

例えば、花瓶に植わってるバラの花を、お父さんがロボットになって、それを持って自分に渡すと、そういうのを、ロボットに子どもが指示を出すという形で出せばいい。だから、普通は子どもはわからないので、その花をとって僕に渡せみたいな命令を出すんですね。そしたら、それじゃだめなので、父親は、それでは指示が曖昧で動けませんと。例えば、まず目の前にある花まで、どっち向きに何歩進むとか、とるといっても、どっちの手を前に出してつかむとか、そこまで具体的な指示を出して、それを一つ一つやって、今度は父親が子どものところに行って花を渡すと。

だから、まさにロボットの動作を一つ一つ言葉に置きかえて考えていく、それがプログラムの思考で、家でも、パソコンなくても、タブレットなくても、そういうことでロボットごっこということできますよというふうな話もあって、そういうことを学校がちょっと紹介したりして、こんな考え方で、家庭でもそれは理解できますよということを上手に伝えていけば、不安感もないというか、こんなことをするんだ、こういうふうに考えるんだということで、親子で一緒に考えることだってできると。

遠藤教育長

確かに、実際やってみるといことで話をするところもあるかもしれません。

いくつかの大事な論点も出てきました。プログラミング、実際学校でどうやるかという話と、国全体の人材育成という話と、それから逆に非プログラミング的思考の意義とか、あるいは家庭での不安の解消とか、そういった点についていろいろご指摘をいただいて、非常に有意義だったかと思えます。

今回のご意見を踏まえて、教育委員会としても、これから皆さんが不安になることがないように、学校で無理がないようにプログラミング教育を進めていきたいと思しますので、よろしくをお願いします。

〔非公開の審議〕

日程第3 議事

- ・議第21号 令和元年度熊本市一般会計補正予算（9月補正予算）について

《福島 教育政策課長 提出理由説明》

〔採決〕 **【原案どおり承認された】**

- ・議第22号 平成30年度熊本市各会計決算について

《福島 教育政策課長 提出理由説明》

〔採決〕 **【原案どおり承認された】**

- ・議第23号 熊本市立幼稚園条例の一部改正について

《古家 学務課長 提出理由説明》

〔採決〕 **【原案どおり承認された】**

- ・議第25号 熊本市立学校の教育職員の給与に関する条例の一部改正について

《岩崎 教職員課長 提出理由説明》

[採決] 【原案どおり承認された】

[閉会]

遠藤教育長

本日の日程は全て終了したので、令和元年7月の定例教育委員会会議を閉会いたします。